

国際広報メディア専攻

平成 28 年度
後 期

日本語論述

13:30～15:30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
3. 解答用紙（25 字×40 行＝1000 字）は、2 枚ある。
4. 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1～4のうちから1題を選択し、1600～2000字の日本語（横書き）で解答しなさい。なお、適当な位置で改行して段落に分けること。また字数は改行による空白を含めて計算する。

【問題1】

マス・コミュニケーションの古典的理論に、「コミュニケーションの二段階の流れ」論がある。それに従えば、マス・メディアが流布する情報や見解が直接に受け手に与える影響はさほど大きくない。たとえば選挙の場合においては、むしろ個人間の相互作用こそが有権者の態度決定に重要な役割を果たすという。したがってそこでは、マス・メディアの受け手の中でも扱われる問題に関心が高く、マス・メディアから得た情報を整理して周囲の者に話すことのできる「オピニオン・リーダー」の影響力が大きなものとなる。そのような意味で、マス・メディアと大衆の間にはコミュニケーションの二段階の流れがあるというのである。

この理論は20世紀半ばのアメリカで提起されたものであるが、これは現代にどのような点で妥当し、どのような点でもはや有効ではないだろうか。現代のメディア環境を念頭に置きつつ論じなさい。

【問題2】

企業など組織における構成員の「ダイバーシティ（多様性）」が近年注目されるようになってきている。①それはなぜだと考えるか。また、②マス・メディア（新聞社、テレビ局など）において「ダイバーシティ」が特に重視されるべきとする議論があるが、それはどのような理由によると考えるか。具体的な事例を挙げつつ、二点について自分の考えを述べなさい。

【問題3】

組織において不祥事や事故が発生した場合、広報戦略の立案とその実施は、事業継続にとって重要な課題となる。不祥事が発生した場合、対社会的にはどのような広報戦略が望ましいと考えられるか、具体的な不祥事例を挙げながら、あなたの考えを述べなさい。

【問題4】

かつて北海道大学で留学生生活を送ったメキシコ人研究者が家族をともなって札幌に戻ってくる。1年の滞在予定だが問題はその研究者の娘（中学生）のことである。その研究者は札幌のインターナショナル・スクールに娘を入学させようと考えていた。だが学費が非常に高く、大学から支給される奨学金では支払うことが出来ない。一般の公立中学に入学させるのは、日本語の問題があって不安である。

このメキシコ人研究者の娘を、1) インターナショナル・スクールに入れるのがよいか、2) 公立中学に入れるのがよいか、3) その他のいい方法があるか、これら三つの立場から一つを選び、あなたの考えを書きなさい。